



TSUBASA (No.54)

つばさ54号

山梨県教育委員会

ふるさと
“やまなし”に
生きる子供たちの

豊かな心の
育成のために

道徳教育で学校・家庭・地域がつながる

山梨県教育委員会教育長 降旗 友宏

現在、公立小中学校では、GIGAスクール構想に基づき1人1台端末が整備され、ICTを活用した授業により、未来の「やまなし」を担う子供たちに、今後更に進展が予想される情報化や国際化に対応するための力を育成しています。一方で、不登校児童生徒の増加や教員の働き方改革などの課題への対応も求められています。

このような学校教育の課題を学校だけで解決することは難しく、家庭や地域の協力を得ながら、連携して取り組む必要があります。そのため、学校・家庭・地域が連携・協働することで学校等の課題解決に取り組むコミュニティ・スクールの導入が進んでいます。また、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする道徳教育においても、三者の連携を推進する基礎となる、人と人とがつながろうとする心を育む取組が行われています。

県では、子供たちが自他を敬愛する心や、困難や挫折に直面しても諦めない心などの豊かな人間性を、社会全体の連携の中で育むため、「家読推進運動」や「気配り思いやりマナーアップ運動」などの、「しなやかな心の育成プロジェクト」に取り組んでいます。

本誌では、学校における「道徳教育」に焦点をあて、学校・家庭・地域の三者が連携し「つながる」ことを意識した道徳教育研究推進校等の取組を紹介しています。この三者の連携は、子供が学校で得た学びを家庭や地域での日常生活に生かすだけでなく、家庭や地域での経験を学校の学びに反映するといった社会全体としての学びのサイクルを築いています。

子供たちの生活基盤である学校・家庭・地域が「つながる」ことで、ふるさと「やまなし」に生きる子供たちのしなやかで豊かな心を、育んでいくことを期待しています。

しなやかな心の育成プロジェクト

山梨県では、児童生徒の健全な成長に関わる問題の解決に向け、子供たちに自己肯定感を基盤としたく自他を敬愛する心、困難や挫折に直面しても諦めない心など、豊かな人間性を育むために、道徳教育の学びを深め、地域全体で子供たちを育てていく環境づくりを進める取組を行っています。

「家庭(ファミリー)」

家読(うちどく)推進運動
～家庭での家族間の読書活動～



<生涯学習課事業>

家族で心も体も
ウォームアップ運動



<保健体育課事業>

ファミ・コミ・スクール コミュニケーション

「学校」「家庭」「地域」がつながり、活発なコミュニケーションをとることを推進

「しなやかな心の育成」ワークショップ
<保健体育課事業>

道徳教育推進会議
<義務教育課事業>

「学校(スクール)」

やまなし道徳教育推進事業



<義務教育課事業>

「地域(コミュニティ)」

気配り思いやり
マナーアップ運動

<高校教育課事業>

「つながる」 道徳教育

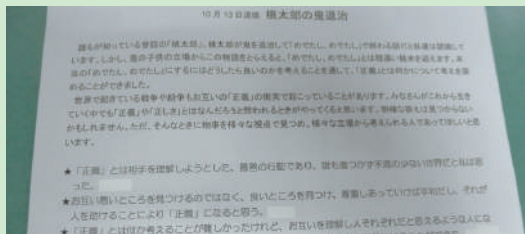
近年、子供たちを取り巻く環境は、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数、特別支援学級・特別支援学校に在籍する児童生徒数、日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒数の増加など多様化・複雑化しています。このような課題に対応していくためには、家庭や地域の協力が不可欠であるとともに、子供たちに、他者と関わり合う力を育てていくことが重要となります。

道徳教育で「学校」と「家庭」「地域」がつながる！



道徳教育で養うことを目標としている道徳性は、学校生活だけに限られたものではなく、家庭や地域社会においても、児童生徒の具体的な行動を支える内面的資質となります。協力して取り組むための**情報発信**と**組織づくり**で学校・家庭・地域がつながります。

情報発信



授業後の振り返りを一覧にして配付

「通信」「学校ホームページ」等で、児童生徒のよさや成長の様子、道徳科での学びの様子等を発信できます。



組織づくり



学校、家庭、地域社会の願いを交流し合う機会を設定することで、課題や、目指すべき方向性を確認できます。
※学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の活用も一つの方法です。

※学校運営協議会制度とは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる仕組みのこと
(詳しくはこちらを確認)



共有した子供像に合わせて、活動を進めていくことができます。

(文部科学省ホームページより) (山梨県教育委員会ホームページより)



しっかりあいさつができる子供に育てほしい。



読書をたくさんして豊かな心を育てほしい。

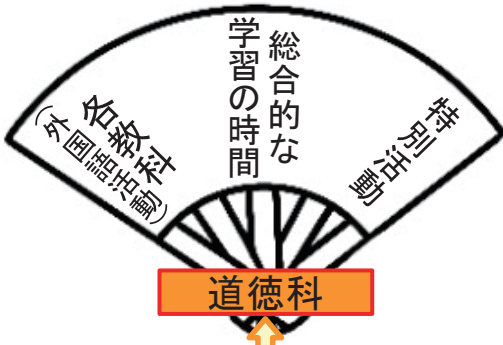


道徳科で「学校」と「家庭」「地域」がつながる！



道徳科の授業は、※**道徳教育の要**です。家庭や地域との共通理解を深めることができるよう、**道徳科授業の公開**や、家庭・地域からの**積極的な授業参加**を行うことで、学校・家庭・地域がつながります。

※道徳教育の要とは



各活動を**補充**、**深化**、**統合**させる

補充⇒取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うこと。

深化⇒児童生徒や学校の実態等を踏まえた指導をより一層深めること。

統合⇒内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすること。

道徳科授業の公開

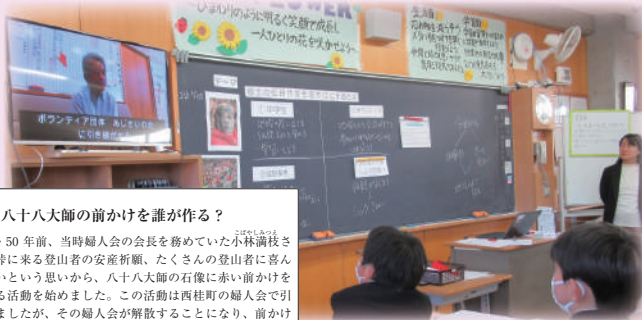


道徳科の授業公開で、学校での学びの様子を発信できます。

家庭・地域の方が一緒に授業を受けたり、子供たちの話合いに参加してもらったりする工夫も考えられます。



積極的な参加を得る授業の例



八十八大師の前かけを誰が作る？

今から4・50年前、当時婦人会の会長を務めていた小林満枝さんが、三ツ峠に来る登山者の安産祈願、たぐさんの登山者に喜んでもらいたいという思いから、八十八大師の石像に赤い前かけを作ってかける活動を始めました。この活動は西桂町の婦人会で引き継いできましたが、その婦人会が解散することになり、前かけを作る人がなくなってしまいました。

その時、山岳ガイドをしていた花月秋雄さんは、三ツ峠を衰退させたくない、これからもたくさんの人に来てもらいたいという思いから、八十八大師の前かけづくりを続けてくれる人を探しました。その思いに賛同した地域の織物業者の仲間が、「自分が5年間布を提供しよう。」と言ってくれました。また、他の仲間が、「うちで縫製をしている従業員がいるから、うちで前かけを縫いましょう。」と言ってくれました。

こうして前かけづくりは数年続きましたが、布もなくなり、縫製の従業員たちもやめてしまい、また前かけを作れなくなりそうになりました。それを聞いた町の教育委員会は、布は教育委員会で提供し、ボランティア団体が作成してもらうことにしました。いくつかの困難を乗り越え、地域の人たちはこの活動を大切に続けてきました。

やがて、ボランティア団体の方たちも高齢になり、ついに前かけを作るのが難しくなりました。そこで令和2年、当時の川村教育長さんが、「中学生の家庭科の授業で前かけを作ってもらえないか」と中学校に依頼にきました。

八十八大師の前かけを誰が作る？

- ① 中学生が作ってあげばいい。
- ② ボランティアで募集し、作ってもらえばいい。
- ③ 新しい縫製業者を探し、作ってもらえばいい。
- ④ 誰も作る人がいないのなら、もう作れなくてもしょうがない。

さて、皆さんはどう思いますか？



地域教材の開発、活用の際の協力

多様な経験、専門知識をもった方からのメッセージ

地域の方に協力いただくことで、**多様な経験**や**専門的な知識**を生かした授業を考えることができます。

家庭の方にも、**授業前のアンケート**や**子供たちへの手紙**、**事後指導等の協力**を得ることが考えられます。



道徳科で「子供」と「子供」がつながる！



道徳科では、児童生徒が道徳的価値に関わる感じ方や考え方を交流し合うことで自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める学習を行います。考えを交流する中で、子供と子供がつながります。

考えを交流する

ペアやグループでの話し合い

何でも言い合い、認め合える学級の雰囲気づくり

が、活発な考えの交流につながります。



自分の考えを基に、自分とは異なった考えと接する中で、自分の感じ方や考え方がより明確になり、学習の深まりにつながります。



道徳教育で「教師」と「教師」がつながる！



道徳教育は、全教職員が組織的に、一貫性のある指導を行うことが大切です。共通理解を図る中で、教師と教師がつながります。

共通理解を図る

全体計画、年間指導計画等の、定期的な振り返り、見直しが、共通理解につながります。



指導体制の工夫も、共通理解を図ることで、効果的に実施されます。



↑ 小中合同の研究会

道徳教育で「学び」がつながる！



現代的な諸課題への対応も、道徳教育に求められてきています。学校の教育活動全体を通して行われる道徳教育が、計画的に実施されるように、道徳教育を核としたカリキュラム・マネジメントを行うことで、様々な学びが効果的につながります。

道徳教育に求められている現代的な課題

いじめ問題

国際理解

平和

環境

福祉教育

人権教育

(ジェンダー、※アンコンシャス・バイアス等)

生命倫理

など

現代的な課題は、多様な見方・考え方があるため、複数の内容項目を関連付けて扱う指導等の工夫が必要となります。計画を立てることで関わりのある道徳的価値と関連付けた指導を行うことができます。



※アンコンシャス・バイアス…無意識の偏見や思い込みから偏った見方をしてしまうこと

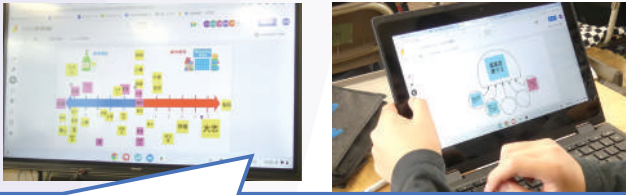
カリキュラム・マネジメントのポイントについて⇒
(独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズNo.68)



推進校における具体的な実践例は
次のページから⇒

伝え合い、対話することで「友達の考え」と「自分」がつながる！

全員が考えをもって伝え合う ICTの活用

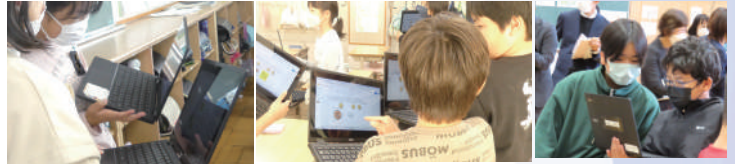


Google ChatやGoogle Jamboard・思考ツールを活用して個の考えを表現し、全体で共有できるようにする。



フェイスマークを使用して登場人物の気持ちを表現し、選んだ理由を伝え合う。

ペアやグループでの交流・対話の充実



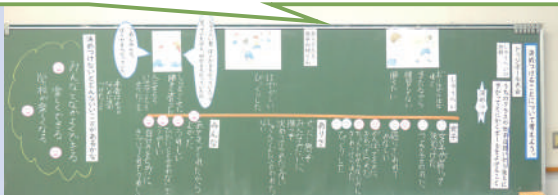
全員が対話できる場を設定し、自己の考えを深める。何でも言い合える学級の雰囲気づくりを大切にする。

自分事として考えることで「学び」と「自分」がつながる！

導入の工夫 ねらいとする道徳的価値への方向付けを図り、問題意識を自分事として捉えられるようにする。イラスト・アンケート・写真・インタビュームービー等を活用する。



対比的な板書 登場人物の気持ちの変化が比較できるように工夫し、終末のまとめにつなげられるようにする。



心のものさし 「自己を見つめる児童」の姿を教師と子供で共有し、授業後に振り返ることで子供自身が成長を感じられるようにする。



5・6年【道徳 心のものさし】



レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
今日の話の内容や問題は、自分とはあまり関係ないと思う。	今日の学習内容と同じようなことが、自分にもあったことを思い出せた。	今までの自分の考えや感じ方と比べながら、かんがえることができた。	学習を通して自分の考えがはっきりしたり、変わったりしたことがあった。	自分のよさに気づき、これからの目標ややりたい自分の姿を思い浮かべることができた。

道徳的実践活動で「なりたい自分」と「自分」がつながる！

命の大切さ

うさぎと触れ合い



仲よく助け合い
縦割り遊び

感謝を伝える

スマイル動物園



地域のために
育てた菊を地域へ

自己を見つめる終末

対話・役割演技・ゲストティーチャーの話等、自分事として考える学習を通して、終末では、これからの課題や目標を見付ける。

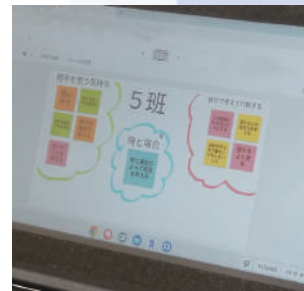
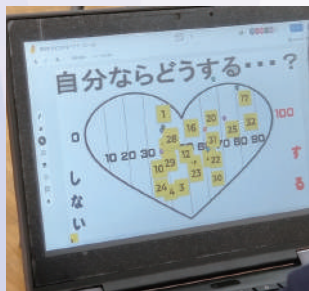
考え、議論することで「生徒」と「生徒」がつながる！

自分事として捉えさせる

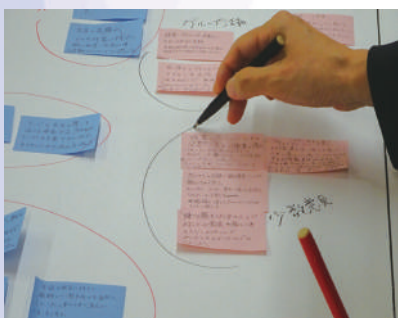
主題やねらいに関わる事前アンケートを取ったり、自分ならどうするかを考えさせたりする。ICTを活用し、一人一人の考えや、クラス全体の傾向を共有する。

小グループでの話合いで深い学びへ

小グループで意見交換することで、多面的・多角的に考えさせる。ホワイトボードに考えをまとめて発表したり、Google Jamboardを使った意見交換の後に、似たような考えを整理したりしている。ICT活用の課題点であった生徒同士の対話も生まれる。



公開研究会などでの協議を通して「教師」と「教師」がつながる！



よい点と課題を付箋で色分け

校内研究会や公開研究会では、指導案検討や授業参観後の研究協議を行った。生徒と同様、小グループを活用し、付箋を使って意見交換した後、全体で検討している。課題点だけでなく、よい点も話し合い、発表している。いろいろな考えが出され、また、指導主事を招聘し、専門的な指導・助言を受けることで、授業者だけでなく、参観者全員にとって学びのある会になっている。



あいさつ運動やボランティア活動を通して「学校」と「家庭」「地域」がつながる！

保護者や地域住民を交えたあいさつ運動。他にも小中合同や生活委員会によるあいさつ運動も。

ボランティア委員会が育てた花苗を、地域の公民館や施設へ毎年進呈。

夏休み中の日曜日早朝に、ボランティアで、保護者、生徒、教員で校庭の草取り。



手立ての工夫で「教材」と「子供」がつながる！

道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるための工夫

【価値への導入】

- 考える視点を明確にし、問題意識をもたせる。
 - ・事前アンケートの活用
 - ・教材と似ている場面について自分だったらどうするか。

【主題の提示】

- 本時のねらいを端的に表し、何について考えるのかを示す。
 - ・「やさしくするって、どんなこと」（1年「くりのみ」）
 - ・「なぜ過ちを許せるのか考えよう」（5年「銀のしょく台」）

【教材提示】

- 教材の内容把握の手助けとなる、わかりやすい提示をする。
 - ・大型テレビに挿絵を映しながら範読（低学年）
 - ・挿絵を提示しながら、登場人物の確認と教材のあらすじを話す。（高学年・長文）



【主発問と補助発問・問い返し】

- 何を問うか、どう問うか、問う視点を変える。
 - ・「きつねは涙を流しながら、心の中で何と言っているでしょう。」（1年「くりのみ」）
 - ・「ミリエル司教のしたことは、ジャンのためになると思いますか。」（5年「銀のしょく台」）

【役割演技・動作化】

- 自分だったら…と自分の体験から表現する。
 - ・「このあと、うさぎはきつねに何と言ったでしょう。お話の続きを演じてみましょう。」（1年「くりのみ」）



- ・ジャン「ミリエル司教、どうして本当のことを言わずに銀のしょく台までくださったのですか。」（5年「銀のしょく台」）



多面的・多角的に考え、自他の考えを交流し合うための工夫

【効果的な話し合い】

- ・考えの交流、比較、まとめ（目的）
- ・ペア、グループでの話し合い、全体での話し合い（形態）
- ・全体の話し合いで、考えをつなげていく。



（教師の役割）

【ICTの活用】

- ・立場を明確にし、交流し合う手段



心メーター



Google Jamboard

自己の生き方について考えさせるための工夫

【自らを振り返る】

- ・教材から離れ、今までの経験や体験を思い起こしたり、これからの生活に生かしたいことを考えたりする。
- ・事前アンケートや主題に立ち返る。
- ・自らを振り返るための時間を保障する。

学習環境の充実で「子供」と「子供」がつながる！

「フリートーク」で、安心できる学級集団づくり

「一人にさせない」「色々な人と話す」をルールに、楽しい話題、自分たちの生活の課題など、様々な話題を楽しく話す。



「心の広場」で、友達と考えの交流

「ともだちや」「さかなのなみだ」など絵本の感想を交流し合う。



道徳的実践活動で「子供」と「家庭」「地域」がつながる！

あいさつ日本一の町 町全体であいさつ運動



N授業 町内3小学校合同の道徳授業



三世代交流会 父母・祖父母との交流授業



意見の交流で「生徒」と「生徒」がつながる！

交流方法の工夫でつながる！



自分事として考えた
ことを、ペアで共有

役割演技を通して
実感を伴った学びへ



様々な思いに触れ
納得解を見付ける

ICTを使ってつながる！



これまでの振り返り
アンケートに回答

全体の考えを
即座に共有

一人一人の
納得解の発見

回答の理由の共有
多様な考えに触れる



学校行事で「保護者」「地域」とつながる！



「食」を通して
地域の方から
伝統について学ぶ



いのちの学習で、
親の思いについて考える



地域の保育園を訪れ
自らの成長を実感し
将来について考える



授業の工夫で「子供」と「子供」がつながる！

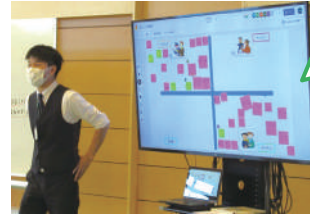
～自他との対話の中で考えを深める道徳の授業づくり～



2年「ぐみの木と小鳥」ペープサート

心豊かな子供の育成

授業の工夫



6年「ロレンゾの友達」Google Jamboardを使って意見把握

○対話を取り入れた授業

- ・ペア、グループで意見発表だけにならないようお互いにコメントを返しながら。

○教材の提示

- ・教材を分割提示し、語り聞かせながら場面ごとに教師が問いかけていく。
- ・ペープサートを活用した教材の提示。
- ・長文教材は事前に読む時間をとることで、対話時間を確保。



○役割演技

○心の数直線

○授業の流れがわかる板書

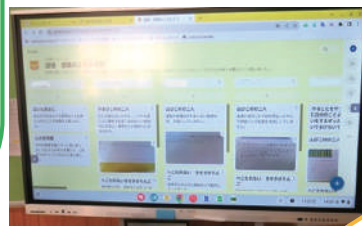
一人一人の子供がねらいに迫る

○ICTの活用 全員の考えを見える化

- ・Mentimeter
- ・Googleドキュメント
- ・Google Jamboard
- ・Padlet
- ・Win Bird
- ・教材提示装置(実物投影機)



子供の考えをリアルタイムにフィードバック



6年「ロレンゾの友達」対話を通して考えを深める



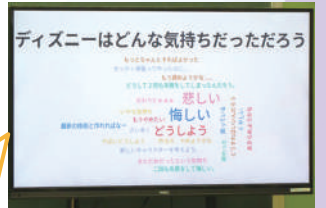
2年「ぐみの木と小鳥」役割演技



3年「絵葉書と切手」実物投影機

4年「山びこ村の二人」Padlet・Win Birdを活用した意見交流

5年「ミッキーマウスの誕生」Mentimeterを使って傾向把握



小中連携の取組で「小学校」と「中学校」がつながる！

○西桂町教育協議会の取組

～西桂小中学校の児童と生徒と教職員がつながる～

○小中学校が連携した道徳的実践活動

授業研究部

- ・異校種での道徳の授業研究及び指導案検討
- ・小中学校での参観授業の交流



小中連携研究部

- ・小中連携の研究
- ・「キャリア・パスポート」を活用した道徳記録の研究
- ・あいさつ運動や作品交流の計画運営



調査研究部

- ・児童、生徒、保護者へのアンケート調査及び分析 (Google フォーム)
- ・児童 6月と1月
- ・保護者 6月

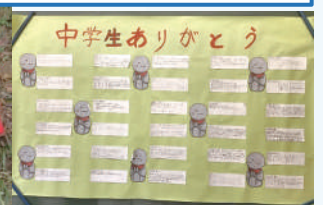


小中あいさつ運動



小中作品交流

6年三ツ峠 八十八大師の前かけ交流



道徳で「桂の木の葉」と「学び」がつながる！

道徳の別葉・授業の記録を
可視化
西桂中由来の桂の木の葉は
ハート型



黄葉：教科
緑葉：特活



指導主事を招聘
毎月の校内研



道徳で「生徒」と「生徒」がつながる！

考え、議論する



主体的な学び

生徒会縦割り活動
全校レク大会



思いやりの心

つなく
～仲間とともに一歩前へ～



生徒会テーマと全校制作

道徳で「学校」と「地域」がつながる！

八十八大師
前かけ引継ぎ式



桂川公園清掃



毎月二回
町あいさつ運動



町防災訓練



植林体験

「なかまい〜れて」「い〜いよ」本園での自由遊びの時間に園庭からよく聞こえてくる子どもたちの声である。子どもたちは学習ではなく、遊びを中心とした体験を通じて様々な道徳的な体験をしていく。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の4番目の項目に「エ 道徳性・規範意識の芽生え」があり、「友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる」と書かれている。

様々な体験を通じて
「子ども」と「子ども」が
つながる！



子どもたちは、道徳や規範を大人が言葉で教えるよりも、友達との関わりの中で少しずつ身に付けていく。その中で保育者には、子ども同士がよりよく関わり合えるような活動を考えたり、必要に応じて一緒に中心となって遊びながら働きかけたりすることが求められる。

また、幼稚園では、自然や、地域社会における様々な伝統や文化、自国以外の文化等に触れて親しみをもつことで、社会とのつながりを意識したり、多様性を尊重する態度や意識の芽生え等を育てていったりする。幼児期において様々な人々との出会いは重要であり、コロナ禍で滞っていた地域社会との連携も今後積極的に進めていく必要がある。



地域社会との連携で
「社会」と「子ども」が
つながる！

冒頭の「なかまい〜れて」「い〜いよ」の言葉が自然に発せられる感性が、大人になっても失うことのないように、と願いながら日々子どもたちと過ごしている。

個の多様性を尊重し、自己肯定感を高めるための指導の在り方

「RJ サークル（修復的対話）」で「生徒」と「生徒」がつながる！

「RJ サークル（修復的対話）」とは

RJ(Restorative Justice)サークルは、

- ①お互いを尊重する
- ②相手の話に耳を傾ける
- ③相手を非難しない
- ④話したくないときは話さなくてもよい

というルールの中で身近なことをテーマに、対話を行う方法である(※)。「安全な場での対話を通して自己表現できる関係性」を実際に体験することができるこの取組は、集団の心理的安全性を高める上で効果的であると考えます。

本年度本校では、生徒の関係性を構築し、学校コミュニティを安全にし、お互いを尊重できる環境をつくるための一助となればということで LHR の時間に全校で取り組んだ。「お互いの意見を尊重して話し合う」という体験を通して、「批判されないという安心感があることで自分自身が表現できた」という生徒の感想が多くあった。

※出典:「修復的対話トーキングサークル実施マニュアル」

著者:梅崎薫 出版社:はる書房



「RJ サークル」職員研修会



LHR での実践「RJ サークル」

体験活動で自己肯定感を高め「他者」や「社会」とつながる！



「保育基礎」「産業社会と人間(田植え)」

「自己肯定感を高める」

生徒はコロナ禍であったこともあり、直接的な体験が不足している。体験的な学びは、様々な課題に直面しながら学習を進めることから、豊かな学びを五感を通して直に感じることができる。また、学びの中で得られた達成感や充実感によって自らの成果を認めることで、自己肯定感を高められると考える。

「小学校との交流(芋掘り)」「フェスタ杜のきらめき」

「他者や社会とつながる」

本校では、地域に根ざした学習活動を取り入れている。授業で学んだ知識と技術を生かした「小学生との交流」や毎年10月に行われる収穫祭「フェスタ杜のきらめき」等は、地域での自分の役割を感じることでできる活動である。このような活動は、自分も地域の一員であるという自覚を生徒がもつことができ、地域の方々と積極的に交流する姿勢を身に付けるとともに、地域を愛する人材の育成にもつながると考える。

「たくましい力 ゆたかな心」

～明るく元気で、自他を尊重する気持ちを持ち、
様々な人々と協働しながら意欲や喜びをもって生活する～



わかばちゃん

本校は県内で最初に開校した知的障害特別支援学校で、創立 50 年目となる。小学部 1 年生から高等部 3 年生までの児童生徒、244 人が学んでいる。

小学部、中学部では、知的障害特別支援学校ならではの「日常生活の指導」や「生活単元学習」などの時間を主に使って「道徳」の内容を学習している。高等部では「道徳」の時間に、今後社会の一員として生活していく上で他者の意見を知ったり考えたりしてほしい内容を学習している。

児童生徒会活動で「児童生徒同士」がつながる！

児童生徒会活動で、「花いっぱい運動」「あいさつ運動」を行った。「花いっぱい運動」は、小学部から高等部までの全校のクラスを縦割りでペアにし、普段触れ合うことが少ない他学部の児童生徒と一緒にプランターに花を植えた。上級生は下級生を思いやり、どのように手伝えれば一緒に活動できるか考えながら関わった。下級生は、花の苗を優しく扱うことの大切さを実践的に学んだ。



「あいさつ運動」は児童生徒会役員が中心となり、登下校時に呼びかけを行ったり昼休みに学校マスコットの「わかばちゃん」と一緒に各教室をまわって啓発活動を行ったりした。

係活動で 「児童」と「教師」がつながる！ (小学部)

小学部 1 年生は、学校生活に慣れた頃から係活動に取り組み始める。係活動を行うことで教師に「ありがとう」と言われ喜ぶ児童や、自分も褒められたい、感謝の言葉をもらいたいと係活動に意欲的に取り組む児童がいる。繰り返すことで人の役に立つ喜びも感じるようになる。

内容によっては、このように教師が意図的に関わり、児童が道徳性の基礎を実感しながら行動できるよう指導している。

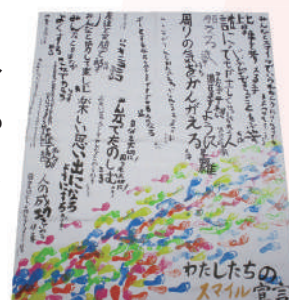
学校行事で 「生徒」と「学び」がつながる！ (中学部)

中学部 1 年生は、学習発表会で民話『富士山と八ヶ岳の背比べ』を基にした劇を発表することになった。仲違いした 2 人の関係を修復するにはどうしたらよいか、教師や友達と一緒に考え、友達同士が協力して富士山と八ヶ岳に働きかけることにした。

また、2 人の姿を普段の自分たちに置き換えて考え、友情や協力することの大切さを実感して表現することができた。

『スマイル宣言』で 「生徒」と「社会」がつながる！ (高等部)

高等部 3 年生は、『スマイル』を合言葉に、①自分がスマイルでいるために、②周りの人がスマイルでいるために、③みんな（世界の人）がスマイルでいられるために、何を考え、どのように行動したらよいか学習した。



授業のまとめとして『スマイル宣言』に、全員が一言ずつ書き入れた。

しなやかな心の育成講演会

しなやかな
心

様々な分野で活躍する地域の方を、講演会や学習会に講師として派遣することにより、児童生徒の「しなやかな心」を育成するための講演会を実施しています。



令和5年度実施例

講演題:「命の授業」

対象:生徒(中学2年生)

○地域の医療従事者の方を講師に招き、自分や周りの人々の「命の大切さ」について考えることで、自分の命も、相手の命も大切にできる心を育てていく。

講演題:「夢を見るより大切なこと」

対象:生徒、保護者、教職員

○山梨県出身の元パラアスリートを講師に招き、講師自身の経験から得たものについてお話をいただくことで、目標をもち続け、努力することの大切さについて考える。



令和6年度も実施予定です。小中学校は希望校を募集します。ぜひ、応募してください。

あとがき

委員長 比志 保

新型コロナウイルス感染症の5類移行により日常が戻ってきましたが、長かった影響もあってか、人と人とのつながりが薄れ、教育現場ではいじめや不登校が最多となっています。戦争・環境問題・災害も気がかりです。SDGsの基本理念は「誰一人取り残さない」こと。ヒトは人とのかかわり、つながり・きずな等「つながる」ことによるのみ人となります。

教師と子供、子供と子供をつなぐ、学校・家庭・地域の連携が求められています。それには、時間・空間・感情を共有する体験、心と心をつなぐ肝要で、道徳教育にはその中核としての役割が期待されています。2年目となった「道徳教育研究推進校」関係者には、範となる道徳授業を中心に多様な実践を積み上げていただきました。

本号のテーマは「きずな」。多くの皆様に活用され、互いのつながりが深まり、山梨の心の教育、とりわけ道徳教育がより一層深まることを願っています。

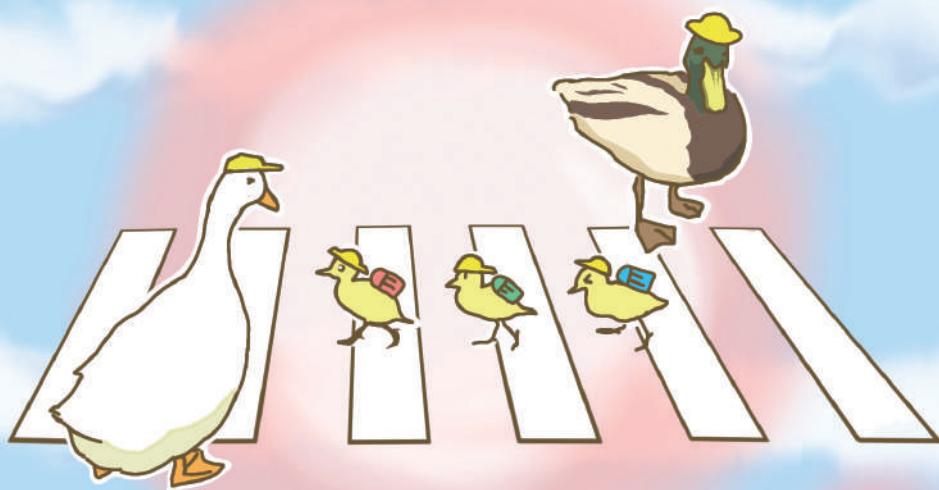
道徳教育推進会議

◎委員長 ○副委員長

◎比志 保 元中央市教育長 ○永田 真吾 山梨大学
穴水洋一郎 富士幼稚園 花園 誠 山梨県PTA協議会
大村 健一 東雲小学校 高野 真一 富沢小学校
寺田 是 西中学校 渡部 一司 須玉中学校
深澤 秀興 押原小学校 矢崎 香織 北杜高等学校
山田 睦子 甲府市教育委員会 上野 中 生涯学習課
小林 みずほ 峡東教育事務所 笠井 保夫 峡南教育事務所
今村恵美子 総合教育センター

保坂 三雄 チーフスクールカウンセラー
飯嶋 明子 山梨県高等学校PTA連合会
久保寺正史 西桂小学校
渡邊 正也 西桂中学校
山本 千峰 わかば支援学校
白倉 俊樹 中北教育事務所
灘谷 祥子 富士・東部教育事務所

(敬称略)



TSUBASA (No.54)

つばさ54号

令和6年3月

問い合わせ先

山梨県教育委員会

義務教育課

TEL 055-223-1764

高校教育課

TEL 055-223-1766

特別支援教育・児童生徒支援課

TEL 055-223-1752